

HACものづくり

「旭川らしさ」による 新たな価値創造の提案

北海道アーツ＆クリエイション
合同会社



旭川らしさの定義

冬の厳しさと切実な暮らしから生まれた文化



「厳しい寒さの中で」

旭川のものづくり文化の背景には農業ができない厳冬の存在が少なからずあります。寒冷地での生活課題が創造的なものづくりの原動力となってきました。

実用的な家具、生活を彩る木彫やクラフトなど...高い木工技術、制作を行うのに恵まれた環境、暮らしの中で育まれる感性を資源として大切にしながら「旭川のものづくり文化」そのものを伝えていきます。

多様なバックグラウンドによる融合の美学



「交流が生む価値」

異なる文化やアイデンティティ、専門性を持つ人々が交流し、発展してきた旭川。様々な背景が溶け合って新しい価値観や独自の美学が生まれてきました。

このような融合による新たな発見は、旭川の独自なものづくり文化の基盤となっていきます。

枠組みにとらわれない自由な発想



「とりあえずやってみる！」

厳しい北海道の自然環境では、何より冬を生き延びることが最優先事項でした。そこでは失われた伝統があった半面、既成概念にとらわれない新しい工夫が生まれました。

こうした自由な発想で常に進化し続けるフロンティア精神を大切に、新しい時代の中で、自分たちのものづくりを楽しんできます！



HACものづくり事業



私たちができること

私たちが提供するのは
「製品」ではなく「ものづくりの文化」です

■付加価値の高いものづくり

企業が持つ個性と、私たちが大切にしている「手作業」や「地域が育む感性」との掛け算で、独創的で魅力的な木製品の製作を提案いたします。

その他、体験ワークショップの構築や、商品企画、サービス開発、展示などコンテンツの提案もいたします。

■資源の利活用の提案

中でも使われなくなった木材や現場で出る端材の利活用を、多様なメンバーによって幅広い視野と技術・デザインで提案することが得意です。「サステナブルな商品開発を目指したいけど、自社だけでは難しい」と言う企業のお力になります！

発想力と企業の資源を掛け合わせて 「ものづくりそのもの」を商品に



多様なメンバーの視点

ものづくりだけではなくデザイン、アートや建築など多様なバックグラウンドを持つメンバーによってジャンルや技術にとらわれない新たな発想を形にすることができます。



離れたジャンルであるほど面白い

例えば「音楽と家具」などいかがでしょうか。一見全く関係ないように見えますが、オーケストラはみんな椅子に座って演奏します。木でできている楽器もたくさんあります。旭川の木を使って楽器やオーケストラの椅子を作ると面白いかも？この様に意外なところに楽しい機会が沢山眠っていると私たちは考えています。



サステナブルなものづくり

工場制機械工業が主流の現在。私たちは2つの理由で、あえて「手づくり」にこだわっています。1つは作り手の喜びを感じてそれを伝えるには手でつくる事が一番だと考えているから。そしてもう一つの理由は手でつくる知恵と技術を伝えていくのが一番サステナブルなものづくりだから。一見時代に逆行していて実は最先端。温故知新なものづくりを目指しています。



「文化×技術×サステナブル」 地域産業のブランド価値の向上

ものづくりの新しい形

現在、地域のものづくり産業は岐路に立たされています。技術水準の高くなった現在、思うように自分の作業に対して付加価値をつけることができず、担い手も減少の一途をたどっています。

今後は「資本力のある大きな工場」か「より高い個人の技術力とパフォーマンスを持つ小さな工場」といった二極化が一層進むことが予想されます。

そういった中で、私たちは自分たちの地域の文化・ライフスタイルを大切にし、資源を大切にしながら、知恵と技術を伝えていくことによってストーリーのあるものづくりを提案していきます。

このような高付加価値で環境負荷の低い「心が豊かになる」ものづくりは、ウィリアム・モリスに端を発した「資本主義の中でのものづくり」と言った課題に対して、作り手と使う人の喜びを実現する一つの答えになると考えています。

サステナブルなものづくり 異なる要素との掛け算の実例



旭川家具の端材を木彫りに ReMoK Upcycle Project

「端材」を定義して資源に

工場制機械工業を前提として、家具を製作する時には「機械で作業できない小ささ・木目が合わない」などの理由で必ず端材が発生します。

しかし、素材一つ一つと向き合って手作業で作る木彫りにとってはそれも資源になります！

ReMoK Upcycle Projectは、そういった工場の端材を地域の木彫作家とつなぐことで新しい価値を生み出しています。



建築業×HAC 「家と椅子プロジェクト」

建築業では家具とはサイズの違う大きな端材がたくさん出ます。

その処理については様々な方法での再利用が進んでいますが、私たちはより付加価値の高い資源活用を提案いたします。

「家と椅子プロジェクト」は、建築時に出た家の端材を家具として提案するサービスです。

本来、大きさや形が安定しない端材でも、知恵と技術があれば素敵な形を生み出せます。

建築士や家具職人と言ったバックボーンを持ったメンバーが、「世界で1つの椅子」をデザイン～制作してお渡しします。